

令和元年度 学校評価(結果)

本校の教育方針

思いやり，助け合い，支え合う，未来を拓く人財の育成

～これからの人・社会・環境を考えエシカルに行動できる人づくり～

- ① 思いやりの心を持ち，人権を尊重し，人と関わり行動できる生徒の育成
- ② 地域や学校に誇りを持ち，目標に向かって主体的に努力する生徒の育成
- ③ 持続可能な社会，産業，地域の発展に貢献しようとする意欲を持った生徒の育成

徳島県立城西高等学校

総括評価表

重点課題 1
「城西スタンダード（城西高校生としての自覚と誇り）の確立」

重点目標	自己評価		学校関係者評価		今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画		総合評価		総合評価（評定）
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価	
(全体レベル) 生徒と教師の信頼関係を深める中から思いやり、助け合い、支え合う集団を作り、学校に誇りを持ち、心身ともに健康で望ましい人間関係を築ける仲間づくりを図る。 (下位組織レベル) ①挨拶、身だしなみ、時間を大切にするなど基本的な生活態度を育成する ②交通マナーやスマホルールを守るなどの規範意識を高める ③行動を通して思いやりの心を育み、人権を尊重する意欲と実践力を高める ④仲間づくりを進め、特別活動や部活動を活性化させる	自主的なあいさつの実践 実施率：70%以上	ほぼ毎日自主的に挨拶した生徒は、前年度60%に対して今年度は4%減となった(58%)。	B	総合評価 B 学校生活が楽しいと答えた生徒は87%いるが、毎日自主的に挨拶ができていない生徒が約4割おり、城西高校生としての自覚が不足している。	B あいさつの実践は目標設定より低かったが、スタンダードとして打ち立てるためには大事な内容と数値。目標に近づくための努力が必要。自主的なあいさつの励行は、部活動の入部率と関係があるように思われるが。また、服装の徹底もスタンダードの構築には重要。服装頭髪検査以外にも普段の働きかけがいている。学校行事満足度は高いと思われるし、部活導入部率も高いので、それを維持するように頑張ってもらいたい。
	①-1 服装を正しく着こなしたと答える生徒90%以上	①-1 いつも適切に着こなしている生徒は61%、時々規定に反した生徒は26%であった。 ①-2 遅刻延べ数は150回（昨年度183回）で、18%の減少である。	B	①-1 指摘されると素直に直す、言われないと着崩れしている事が多い。内面を充実させることの重要性の指導を充実する必要がある。	
	①-2 遅刻延べ数前年度比20%減	②-1 交通事故発生件数 前年度比50%減 ②-2 SNSによる不適切な書き込み 前年度比50%減	B	②-1 交通違反の黄色い切符を受けた生徒は、88件から40件と半減したが、事故の件数は1件増となった。今年度は1年生の事故が多かったため、入学当初に十分な指導が必要。 ②-2 射撃部は全国大会入賞、硬式野球部は春夏秋の大会でベスト8、バスケットボール部も新人大会でベスト8と活動の成果が表れている。	
	②-1 交通事故発生件数 前年度比50%減 ②-2 SNSによる不適切な書き込み 前年度比50%減	③ 「思いやりの心」や「人権を尊重する意欲や実践力」に関する生徒の自己評価80%以上	A	③ 「他の人々に対して思いやりの心をもっている」という設問に「そう思う」「ほぼそう思う」の合計が89.0%、「いじめを許さず、誰に対しても差別をせず、公平に接している」87.5%。(道徳性に関するアンケート2回の平均)	
	④-1 生徒の学校行事満足度 70%以上 ④-2 部活動加入率 70%以上	④-1 生徒の学校行事満足度 89% ④-2 部活動加入率 77%	A	④ 「他の人々に対して思いやりの心をもっている」という設問に「そう思う」は41.2%、「ほぼそう思う」を合計すると89.0%になる。同様に「いじめを許さず…」は44.0%から87.5%になるため、高い数値が得られたといえる。	
活動計画	活動計画の実施状況	成果と課題	学校関係者の意見		
①-1 HR・学年集会・全校集会などを通じて高校生らしく爽やかに着こなすよう呼びかける。 ①-2 ゆとりをもって登校することが、事故の防止、さらには有意義な学校生活にもつながることを理解させる。	①-1 HR・全校集会・学年集会で各担当者から毎回呼びかけた。服装・化粧など気がついた時点で指導した。 ①-2 全校集会で重ねて呼びかけ、遅刻指導を実施したり各担任の先生による指導も行った。	①-1 頭髪を指導される生徒の数は大きく減少しているが、スカートが短くしたり化粧をする生徒の指導をこまめにする必要がある。 ①-2 遅刻数は減少しており、さらに減少のために呼びかけていく必要がある。	① 服装頭髪検査のときはなおしているが、その後は元に戻すことが多いので、何か対策はないのか。こまめな指導には先生方の負担が大きくなってるので難しいところだが。	全校集会や学年集会、ホームルーム活動等あらゆる機会を通じて、城西スタンダードの確立を図る。	
②-1 イヤホンを付けての運転が危険であることを自覚させ、保護者と連携しながら運転防止を推進する（朝の登校指導での注意喚起）。 ②-2 授業中や行事等でのスマホ預かりの徹底により、節度を身に付けさせる。 ②-3 スマホの正しい使い方の講演を実施する。	②-1 イヤホンを付けての運転をしないよう呼びかけ、校門でイヤホンを付けている生徒に注意し、反省文を書かせ、なぜいけないかを考えさせた。 ②-2 本年度から、始業の前に全員がかごの中にスマホを提出するようにした。 ②-3 2学期に NTT から講師を招き、危険な使用方法や問題点等の講演を実施した。	②-1 イヤホンを着けて登校する生徒はほとんどいなくなったが、学校から離れた場所でも安全のためにイヤホンを着けないという自覚を持たせる必要がある。 ②-2 スマホを提出することで授業中に使用する生徒がほとんどいなくなった。来年度も改善を重ねて実施する。	②-1 交通事故の多発は、1年次の入学当初から注意喚起が必要。事故が起こる場所は、多いところがあるので、その場所の写真を提示するなどして注意喚起をしてみてもいい。 ②-2 授業中や行事等でスマホを身につけさせないのはよい指導法であるが、イヤホンは危険なので、登下校のイヤホンはしないよう徹底してほしい。	②-1 合格者招集・入学式で保護者も一緒に安全運転について呼びかける。またヘルメットの着用や保険の加入を推奨する。事故が多発している場所を地図にシールを貼るなどして掲示する。	
③-1 学校人権の日資料「じんけん耕心」を年10回発行し、人権問題やその解決等についての情報を生徒に提供する。 ③-2 人権講演会を学年ごとに実施する。	③-1 「じんけん耕心」は12月までに8回発行し、生徒に配布している。毎月の「人権の日」に発行が間に合わないことが多い。 ③-2 1学年は「インターネットと人権」、3学年は「デートDV防止セミナー」を	③-1 人権作文を書くことの意義を掲載したり、人権委員会の「エンカル消費につながる商品」を探す企画へのよびかけを掲載したりした結果、多くの生徒が自主的に作品を提出した。定期的に発行できていないことが課題である。	③ 「思いやりの心」や「人権尊重の意欲・実践力」の自己評価はアンケートで調べるしか知る手立てはないのか。アンケートの内容によっては生徒の答え方は変わるので、質問内容はよく考えて作成しなければならない。	③ 調査方法について再検討する。日々の活動の中で教員が生徒に望ましい行動を示すとともに、生徒ができていないことを認める指導を行う。	

		<p>テーマに実施した。2学年は3月に「認知症サポーター養成講座」実施予定。1学年と3学年は、各学年で合同のホームルーム活動でも講演会を実施している。</p>	<p>③-2 ほとんどの生徒が感想文に講演での気づきや学び、考えたことを具体的に書くことができている。日程調整が難航し、一部計画通り実施できなかった。</p>	<p>アンケート内容をしっかり吟味し、生徒の思いや感じるものが反映できるようにしてほしい。</p>	
	<p>④-1 学校行事への主体的な参画を図る。 ④-2 部活動顧問会議での意見交換を充実し、生徒に対して部活動に関するアンケートを実施し、活性化度を確認する。</p>	<p>④-1 球技大会、体育祭では意欲的に活動できた。体育祭の改善点や球技大会についてのアンケートを行った。耕心祭では農業科、総合学科ともに販売・展示や体験などを積極的に行うことができた。 ④-2 各顧問との連携を図り、練習用具や環境の整備等に努めた。生徒の活動状況を把握するため、部活動に関するアンケートを実施した。</p>	<p>④-1 球技大会、体育祭では協力し合い、応援するなどの仲間意識が高まった。耕心祭でも、農業各学科・総合学科ともに、それぞれの場で活躍できた。 ④-2 各顧問との情報交換を密にし、活動に必要な用具や環境整備を進めることができた。アンケートでは、活動人数が増え、人間関係の築き方やコミュニケーション能力が身についたり、挨拶や礼儀を学び、人間として成長できたと実感する生徒が多くなってきた。</p>	<p>④ 生徒が目標に向かって、努力することや活動することを評価する項目があればいいのでは。そう考えると、部活動の果たす役割は大きいと思うので、部活動を通して変容したことを結果として表せるような項目を作ってはどうか。 目標に書いてある「仲間づくり」を図るのではなく、「生徒を育てる」ということではないのか。</p>	

総括評価表

重点課題 2
「確かな学力の育成」

重点目標	自己評価		学校関係者評価		今後の改善方策	
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	総合評価	総合評価（評定）		
<p>(全体レベル)</p> <p>指導方法の工夫・改善を行い、主体的な学びを創造し、学習意欲を高め、基礎的・基本的な知識・技術の確実な定着をはかり、確かな学力を育成する。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>①ユニバーサルデザインの授業を通して学習意欲を育む</p> <p>②一人一人の基礎学力を向上させる</p> <p>③授業研究を深め、主体的・対話的で深い学びになるよう授業改善をはかる</p> <p>④自らの考えを文章として表現する力を育成する</p> <p>⑤読書習慣の定着化、読書の生活化を推進する</p>	<p>評価指標</p> <p>基礎学力テストで学力到達度が年間で上昇した生徒 20%以上</p> <p>① 生徒の総合的評価「授業満足度」90%以上</p> <p>②-1 課題提出率：各学年とも100%</p> <p>②-2 家庭学習時間を年度当初比20%増</p> <p>③ 主体的・対話的で深い学びの授業実践例を各教科で作成</p> <p>④ 授業のまとめ・感想：単元ごとに実施講演会での振り返り作文提出90%以上</p> <p>⑤ 図書を借りる生徒の割合50%以上</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>18.5%の生徒が、基礎力測定診断(学研)で偏差値2以上、基礎力診断テスト(ベネッセ)で学力到達度3段階以上、上昇することができた。</p> <p>①生徒の「授業満足度」85.2%</p> <p>②-1 課題提出率：95.5%</p> <p>②-2 家庭学習時間：2時間以上する生徒の割合2.6%から8.0%に5.4ポイント増加、全く学習しない生徒9.4ポイント増加</p> <p>③ 各教科2~3の授業実践例が提出された。</p> <p>④ 授業のまとめや講演会の感想等の提出率96.7%</p> <p>⑤ 図書館の貸し出し割合（生徒：67.9%）</p>	<p>評定</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>総合評価</p> <p>B</p> <p>外部試験の学力の到達度目標を達成している。</p> <p>① 生徒による授業満足度については意欲の喚起を継続して行う。</p> <p>② 家庭学習をきちんとする生徒と全くしない生徒が二極化した。家庭学習を習慣化させること、そのために生徒の実態に合った課題を与えることが必要である。</p> <p>③ 各教科から出された授業実践例を他教科でも共有する必要がある。</p> <p>④ 設定目標以上に授業のまとめや講演会の感想を文章にする習慣が身につけている。</p> <p>⑤ 3分の1の生徒が本を借りていない結果となった。活字離れが叫ばれている昨今、本の文章表現の正確さを訴え、本に触れる機会を増やさなければいけない。また、生徒の興味を引く蔵書を揃えて本を読む機会を増やしたい。</p>	<p>総合評価（評定）</p> <p>A</p> <p>業者が作るテストの実施で、目標をクリアしているのは、学力が向上していることを示している。生徒の学習意欲が「授業満足度」として評価しているようだが、受け側の感じ方なので授業への取り組み姿勢（発表、質問とか）とは少し違うように思うが。評価する項目の設定は確かに難しいと思う。</p>	
	<p>活動計画</p> <p>① 教室環境や授業の進め方等、個人差に配慮した授業を実践する。</p> <p>②-1 朝のヒタマン、学期中および長期休業中の学習課題の提供を通して、基礎学習の反復をさせる。</p> <p>②-2 家庭学習の習慣化と家庭学習時間調査を実施し、学力の定着を確認する。</p> <p>③ アクティブラーニングの手法や授業実践について各教科で共通理解を図るとともにグループディスカッション（討議）や参加型学習などの手法を用いた授業を展開する。</p> <p>④ 授業のまとめ・講演会での振り返りの設定及び感想文提出の徹底を図る。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① 各教科で、板書は大きな見えやすい文字で、チョークの色を変えてわかりやすくした。導入時または毎時の流れや実習の順序を実物や写真、イラストを交えて提示し、見通しが持てるようにし、重要なポイントを端的にまとめ、色画用紙を使ってわかりやすく提示した。前時の復習を行い、生徒がつまずきやすい所やつまずいている所は特に丁寧に進めることを心がけた。また、机間巡視を頻繁に行い、生徒の様子への把握に努めた。</p> <p>②-1 単元ごとの振り返りプリントや考查対策プリント、週末や長期休暇の課題を提供した。</p> <p>②-2 考查前と普段の家庭での学習時間調査を5月と1月に実施した。</p> <p>③ グループ活動や調べ学習をし、まとめて発表する、小グループで教えあい、学びあいのシステムを構築する。新聞記事等を活用し、自分の意見をSNSに投稿、意見交換するなど思考力や表現力の習得に努めている。</p> <p>④ 授業で各単元や考查ごとに授業のまとめを書く活動を取り入れた。講演会後も120字程度の感想や意見を書かせた。</p>	<p>成果と課題</p> <p>① 生徒による授業評価で、「板書の文字が大きくてわかりやすい」、「教員の声の大きさがちょうどよい」と答えたり生徒が多く、自由記述で「授業が分かりやすい」と述べた生徒が250人いた。生徒に配慮した授業実践が概ね達成できていると思われる。今後は、諦めている生徒が前向きに取り組めるような声かけや工夫が必要であると思われる。</p> <p>② 各教科で確認テストを行い、課題を提供することで、基礎的な内容を反復学習することができた。今後も課題を与え、できることを増やしていく必要がある。また、課題等の内容や分量が生徒の実態に合っているかどうかの検討が必要である。</p> <p>③ 主体的に思考することや他人と対話的な活動することが苦手な生徒が多く、グループ学習などに一生懸命取り組んだと答える生徒は56%だった。今後も授業改善を続け、自分の考えや調べたことをまとめたり発表する主体的な学びにつなげたい。</p> <p>④ 文章を書くことに苦手意識はあるが、メモの取り方を工夫するようになり、何度か書くうちにパターンを習得でき、量・スピードともに向上してきた。自分の活動を振り返り、自分と向き合う生徒が見られるようになった。</p>	<p>学校関係者の意見</p> <p>① ユニバーサルデザインの授業や主体的な学びを創造する授業実践を積極的に取り入れて取り組んでいる。生徒の授業に満足している生徒以外の生徒に対して、どのように取り組むか、重要になってくると思われるが、先生方の負担も大きくなるが、頑張ってもらいたい。</p> <p>② 家庭学習の時間については、しているか、まったくしていない生徒の二極化が起こっているのは、もっと考えなければならない。</p> <p>③ 授業を工夫されて取り組まれている先生方に対して、さらなる努力を強いられるのは申し訳ないが、どうしたかややる気のない生徒に前向きな姿勢を持たせることができるのか。生徒に、授業に関するアンケートを行い、どんな授業を求めているのか知るのもいいのでは。</p> <p>④ 文章力を身につけさせることは自分の思いや考えをまとめたり、伝えたりする力につながるため、論理的な考え方を育成することについても重要である。</p>	<p>① 義務教育範囲の積み残しを確実に補えるような授業・課題を提供し、学力到達度の目標をさらに高める。また、個人差に配慮した授業をさらに発展させる。</p> <p>② 全ての生徒が、家庭で学習に取り組める課題を各教科で考案して提供する。単に作業的なものでなく、自分で考え、問題を解決していく能力を育てる課題を提供する。</p> <p>③ 生徒自身が考えたことや学んだことを発表する形を工夫する。</p> <p>④ 論理的な文章を書く力を身につけ、小論文指導へつなげる。</p>	

総 括 評 価 表

重点課題 3
「社会的自立と進路実現」

重点目標	自己評価			学校関係者評価	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評価		
(全体レベル) 主権者としての自覚を促し、学科の目的に応じた職業教育とキャリア教育を推進し、望ましい職業観・勤労観や将来を設計する力を身につけさせ、社会的自立に必要な能力と態度を育成し、生徒の進路実現に努める。 (下位組織レベル) ①主権者として社会に生きる自覚を高める主権者教育を推進する ②自己の進路を見出すキャリア教育を推進する ③一人一人の教育的ニーズを把握し、進路実現を支援する	評価指標 3年生の進路決定満足度90%以上	評価指標による達成度 卒業生の進路決定満足度 98.8% (1月末現在)	評価 A	総合評価 A	今後も生徒一人一人の進路実現に向けて、進路指導を実施していく。
	①-1 主権者教育講演会と研修会の満足度 生徒(3年生):80%以上 教職員:80%以上 ①-2 主権者としての自覚率60%以上 ②-1 訪問企業数50社及び就職定着度の向上 ②-2 インターンシップや企業訪問を通じての職業観の育成 ③-1 研修満足度70%以上 ③-2 進路ガイダンスに対する満足度90%以上 ③-3 連携活動件数50件以上	①-1 講演及び生徒役員選挙への満足度85% 教職員:90% ①-2 主権者としての自覚率65% ②-1 訪問企業数 53社 ②-2 インターンシップへの参加、企業への応募前見学により自分の希望に合う企業選び、就職への意識付けを行った。 ③-1 研修の満足度80% ③-2 1年生対象の職業別ガイダンス、2年生対象の学問別ガイダンスは今年度は3月に実施予定 ③-3 連携活動件数80件以上	A A A A	総合評価 A ① 大学教授による主権者についての講演の後、実際に生徒会長選挙を実施した。本物の記載台や投票箱を使用したため、良い経験ができたとの感想を述べていた。 ② 進路決定に対する満足度は上昇している。就職に関しては就職希望者が昨年より少なかったが、求人状況は昨年並みに良好だったので、ほとんどの生徒が早期に就職を決定した。企業訪問や面接指導に多くの教職員が携わり、生徒の実態に即したきめ細やかな進路指導ができた。企業への応募前見学はミスマッチ防止のために有効だった。生徒の状況把握と必要な情報提供は3学年担任と連携して概ねできた。1・2年生への段階的な進路指導の在り方を強化させる必要がある。安易な進路決定で、ミスマッチにならないよう早い段階から目的意識を持たせることが課題である。 ③ 進路講演会や進路ガイダンスについては、生徒個々の希望やニーズに応じた講座を開講し、早期からの進路意識向上につなげ、進路実現に向けた準備をしていくことが課題である。	
	活動計画 ①-1 生徒(3年生)・教職員を対象とした講演会と研修会を実施(各1回)する。 ①-2 主権者をテーマとしたホームルーム活動を実施する。(年間1回以上)	活動内容(取り組み) ①-1 生徒(3年生)・教職員を対象とした講演会と生徒会長選挙を実施した。 ①-2 主権者をテーマとしたホームルーム活動を実施した。	成果と課題 ①-1 社会に関心を持ち、主権者として自分の意思を反映する事の重要性を実感できたと思われる。 ①-2 国民一人一人がより良い社会を作る構成員であり、他人任せにしないことをしっかり認識させる事が大切である。	学校関係者の意見 ① 実際の選挙を想定して本物の投票箱や道具を持ち込んでの生徒会選挙は高い満足度を示しているが、主権者教育とは、はたして何なのか、18歳以上で選挙権がただでもらえるということではなく、自らが社会を変えるという積極的な考えを持つようになることだと思う。自らが考えて判断することが大人になることであり、そのための教育が主権者教育ではないのか。 ②-1 新規の企業を開拓して生徒が希望する職種や企業を増やして欲しい。 ②-2 応募前見学の実施はミスマッチを起こさないために有効だと思う。定着率を上げて離職率をできるだけ下げよう頑張りたい。	企業訪問での情報収集やアフターケアの継続に取り組む。また、生徒の応募前見学への参加を勧める。
	②-1 昨年度就職した企業を訪問し、定着のための情報交換や、新規の求人開拓を積極的に実施する。 ②-2 ミスマッチ防止を図るための企業訪問を推進する。	②-1 昨年度就職した企業68社のうち、11社へ旧担任が訪問し、定着のための情報交換やアフターケアを行った。また、28名の教職員が53社へ訪問し、新規求人開拓も行った。 ②-2 就職希望者延べ66名が44社の企業に応募前見学を行い、その中から自分合う企業を選んで受験した。	②-1 卒業生の就職した企業を訪問して、本人や企業の方から勤務状況を聞いた。生徒の希望する職種が多岐にわたるので新規企業開拓が課題である。 ②-2 求人数が多いのでほとんどの生徒が早期に進路決定している。	③-2 生徒一人一人に応じた進路指導を1年次から実施するのは大事なこと。本校の生徒が望むことは10人いたら10人違うことを理解してそれぞれに粘り強く対応してほしい。	今後も生徒の進路希望に応じた進路ガイダンス等を実施するとともに、生徒の視野を広げるような進
	③-1 教職員の進路指導に向けてのスキルアップ向上に向けて研修を実施する。	③-1 2年担任に向け、新しい入試制度の説明会を実施した。また、3学年担任に進学・就職の流れの説明・情報提供を実施した。就労支援ワーカーによる就労支援例についての講演を聴いた。	③-1 進路指導において様々な支援を必要とするケースがあるので、個々の生徒に応じた適切な進路指導を心がけたい。また、新しい入試制度に向けて、教員の意識を高めるための研修も継続したい。		

	<p>③-2 進路実現に向けて生徒の意識付けを図る進路ガイダンスや進路講演会を実施する。</p> <p>③-3 上級学校，ハローワーク，専門機関と密接に連携する。</p>	<p>③-2 5月に生徒・保護者対象に進路講演会としてトークライブを実施した。7月には就職希望生を対象にビジネスマナー講習会を実施し，就職希望生徒の進路実現を支援した。10月に1年生対象に県内私立大学視察を実施し，96%の生徒がよかったと答えた。</p> <p>③-3 2・3年担任が，1,2学期に県内外の上級学校12回の進学説明会に参加し，入試や学校独自の奨学金制度，進学した本校生徒の動向に関する情報・意見交換を実施した。その後，校内で情報を共有した。 就職に関してはハローワークとの電話による情報交換を毎月実施した。</p>	<p>③-2 1学年の大学視察は初めて実施した。大学の授業概要を聞き，施設見学し，進学を全く考えていなかったという生徒も大学進学を視野に入りたいという意見が多く聞かれた。ビジネスマナー講習会は，生徒だけでなく，教職員の進路指導にも有効な内容だったので今後も継続したい。</p> <p>③-3 進学説明会で得た上級学校の特色等の情報を教員が生徒に伝えることで，生徒の進学への意識向上につながっている。専門機関と密接に連携し，情報交換することで，学校だけで指導することが難しい生徒に対してもきめ細かい指導をすることができ，進路決定につながった。</p>	<p>1年次の県内私立大学の見学など新しい試みに取り組むのは重要。今後も続けてほしい。また，今までやってきたことも効果的だと思われるものは続けていってほしい。</p> <p>③-3 先生方が持っている情報を生徒や保護者に伝えることが大事。先生の一言で生徒の将来が決定することもあるので，情報を繁茂に伝えていただきたい。 実際は早い段階での目的意識の構築が難しい。将来，社会的職業的に自立させるためには自分を知り，社会で自分の役割をいかに果たすかがポイント。「傍らの人を楽にして働く」（箸蔵寺の住職の言葉より）つもりで取り組んでほしい。</p>	<p>路指導をしていく。 また，関係諸機関との密接な連携を継続していく。</p>
--	---	---	--	---	--

総 括 評 価 表

重点課題 4
「エシカルな視点に立った行動の推進」

重点目標	自己評価		学校関係者評価		今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	総合評価	総合評価（評定）	
(全体レベル) 持続可能な社会の実現に向けた「エシカル（倫理的に正しい）」な行動を消費・生産・生活に広げ、主体的に考え、多様な教育活動を展開する。	評価指標 「エシカルクラブ」を中心とした活動の推進 1人1エシカル活動の実践	評価指標による達成度 生徒会役員が「エシカルクラブ」を中心として活動した。 各教科や委員会活動においても「エシカル」に関する活動を実践した。	評定 A	総合評価 A	A エシカル消費を特に実践している学校として内外に知られていると思うが、「そよかぜ」ではマイバッグ、食品科では食品ロスを考えて食材を使った食品づくりをしていると聞いている。ますます頑張ってもらいたい。また、エシカルは消費にとどまらず、生産や生活にまで広がるものなので、そういった行動ができる生徒の育成に努めてほしい。 ゴミの分別がしっかりとされており、素晴らしいことだと思う。ゴミ袋の再利用も推奨していると聞き、是非続けていってほしい。
	①-1 「フードドライブ」活動年間2回以上 ①-2 「エシカル甲子園」本戦出場	①-1 7月と11月に実施 ①-2 審査委員特別枠に選出され、本選に出場	A A	① 「エシカル」な視点で教科や特別活動において活動が行われ、昨年度以上に多くの生徒が行動できるようになった。また、生徒間でも「エシカル消費」という言葉が定着し、生徒一人一人が様々な活動に参加し、行動できるようになった。 ② 整備委員会のゴミの分別作業は全クラスが参加してくれて、よくやってくれた。おかげで清掃時のゴミの分別もよくできているクラスが増えてきた。	
(下位組織レベル) ①人や社会・地域を大切にする、人・社会・地域に関わる活動を展開推進する ②環境に配慮する、環境に関わる活動を推進する	② 環境ISO活動の点検結果 年間2回(9月, 2月)の内部評価A	② 整備委員によるゴミの分別作業を1年間にわたり続けることができ、生徒の参加率は100%であった。生徒の分別への関心を高めることができた。ただ、節電に関してはまだ意識付けが低いと思われる。	A	② 整備委員会のゴミの分別作業は全クラスが参加してくれて、よくやってくれた。おかげで清掃時のゴミの分別もよくできているクラスが増えてきた。	学校関係者の意見 ①-1 「そよかぜ販売所」を「フードドライブ」活動の中継地としてなど常時活動したい。 ①-2 今回のアンケートでは認知度は45%であった。目標の70%に向け継続した取り組みをし、生徒からの意見をもとにした生徒主導の活動を進めていきたい。 ②-1 今後も継続して取り組み、持続可能な社会形成に貢献していく実践力を身につけさせたい。 ②-2 今後は、より細分化した分別の実践により、リサイクル率の上昇につなげたい。
①-1 近隣の小中学校の教職員に呼びかけ家庭で余っている食品を預かり、フードバンクへ届ける。本校生徒にも呼びかけ協力できる範囲で参加してもらおう。 ①-2 今年度、初めて本県で開催される「エシカル甲子園」で取り組みを発表し、本戦出場を目指す。	活動計画の実施状況 ①-1 7月に生徒会役員が近隣の小中学校の教職員に呼びかけ、回収ボックスを設置させていただく。耕心祭においても実施。食品はフードバンク徳島に寄付。 ①-2 これまでの本校の取り組みを掲載した資料を提出し、書類審査により全国から70校の応募の中から、本選出場12校に選出される。	成果と課題 ①-1 この活動により、「フードドライブ」活動の意味や意義をしっかりと理解し、生徒が活動することが出来た。この活動が、単発的な活動にならず、生徒会を中心に継続的に実施することが課題である。 ①-2 平成27年度から本格的に取り組んだ「エシカル消費」の認知度上昇に向けた様々な取り組みを発表。目標の認知度70%達成に向けて今後も継続した取り組みが必要。	①-1 この活動により、「フードドライブ」活動の意味や意義をしっかりと理解し、生徒が活動することが出来た。この活動が、単発的な活動にならず、生徒会を中心に継続的に実施することが課題である。 ①-2 平成27年度から本格的に取り組んだ「エシカル消費」の認知度上昇に向けた様々な取り組みを発表。目標の認知度70%達成に向けて今後も継続した取り組みが必要。	①-1 「フードバンク」の活動はエシカルの考えからとても大切なことととらえる。率先してやってほしい。 ①-2 エシカル甲子園で本選に出場できたことは素晴らしいこと。これからも頑張ってもらいたい。	
②-1 生徒会役員や整美委員会を中心に、環境ISOとエシカル消費の関係を学習し、全校生徒による環境ISOの活動を推進し、着実に実践する。(ゴミの分別作業によるゴミの減量、リサイクルの徹底) ②-2 活動の点検結果を分析するとともにエシカルな観点から評価し、内容を掲示する。(毎月実施)	②-1 整美委員会を中心としたゴミの分別作業を毎週行い、ゴミの減量、リサイクルの徹底を通じ、ものを大事にする気持ちを育てることに繋げ、エシカル消費を推進した。 ②-2 整美委員会によるゴミの分別、リサイクルの徹底や、鮎喰川河川のクリーン作戦に参加することによって地域貢献やボランティア精神の育成につながることは、エシカル精神に通じることだと評価できる。	②-1 整美委員会によるゴミの分別作業は100%実施できた。 ②-2 活動の点検は重要で、それを生徒に目で見える結果として示していく必要がある。	②-1 整美委員会によるゴミの分別作業は100%実施できた。 ②-2 活動の点検は重要で、それを生徒に目で見える結果として示していく必要がある。	② 清掃の意義を今後も高めていってほしい。	

総括評価表

重点課題 5
「命を守る安心安全な学校づくり」

重点目標	自己評価			学校関係者評価	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	総合評価		
(全体レベル) 心身ともに健康な体作りや災害等からの安全確保など、命を守るために主体的に行動できる能力と態度を育てる。 (下位組織レベル)	評価指標 防災避難訓練等の実施（年3回以上）	評価指標による達成度 避難訓練は4月・7月・11月の年3回実施 防災訓練を10月と11月に実施 防災クラブ研修会を12月に実施	総合評価 ①-1 朝食の摂取率について今後詳しい調査が必要である。 ①-2 五大栄養素に関する知識を、より一層定着させるためのどうすればよいのか検討したい。 ①-3 歯科検診の二次受診率は13%と目標達成には至らなかったが、昨年度は7%であり、増加した。	総合評価（評定） B 生徒の命、「安全・安心」は学校にとって重要なこと。防災についての意識はかなり養われているようだが、生活習慣の改善へ向けた取り組みは成果が見られないので、各家庭・保護者との協力体制が必要と思われる。	
	①-1 朝食の摂取率の向上 60%以上 ①-2 五大栄養素に関する知識の定着 80%以上 ①-3 歯科検診の二次受診率 50%以上	①-1 朝食摂取について個別に聞いてみるとほとんどの生徒が朝食を摂取できている。 ①-2 五大栄養素に関する知識の定着については67%の生徒について定着しているといえる。 ①-3 歯科検診の結果について生徒に通知するとともに、受診勧告を行った結果、二次受診率は13%であった。	評定 A A B C		
① 生活習慣の基礎となる食生活の改善のために、食育を推進し、健康意識を向上させる。	② 防災に関する知識の定着 60%以上	② 防災に関する知識問題の正解率が60%以上の生徒が約5割であった。次年度は正解率60%以上の者を60%以上にしたい。	② 自分の命は自分で守る「自助」の意識を高め、災害時に命を守る行動がとれるようにさせたい。	学校関係者の意見 ① 歯科検診の受診率が低いので、さまざまな場面で取り組みを行っていただきたい。	
② 防災避難訓練等を通して、命を守る防災意識を高める	活動計画 ①-1 衛生面への注意喚起を含め、朝食摂取の必要性を学校保健委員会を通して働きかける。 ①-2 「食育だより」の充実を図り、確認アンケートを実施する。 ①-3 健康増進のためには歯の健康が大切であることを「保健だより」等で周知する。	活動計画の実施状況 ①-1 12月12日に学校保健委員会を行い、学校医・学校薬剤師より指導助言をしていただいた。 ①-2 生徒の活動として「食育だより」を充実させることができた。 ①-3 学校保健委員会での協議・指導助言の内容について、「ほけんだより」を通して啓発を行った。	成果と課題 ①-1 学校医・学校薬剤師による指導助言よりは食事や睡眠等、健康管理には様々な生活習慣が関係していくことが分かった。今後も関係機関を連携し、保健教育を勧めていく。 ①-2 「食育だより」以外にも食育に関する活動を活性化していきたい。 ①-3 歯科検診時、受診を待つ生徒を対象に歯肉炎や歯等のポスター掲示を行った。また、1年生4組2年生2組を対象に歯科保健健康教育活動として、徳島大学歯科医および保健所職員による授業を実施した。		
	②-1 防災避難訓練・心肺蘇生講習会（応急手当等を含む）を実施し、防災等の意識向上を図る。 ②-2 生徒会を中心とした防災クラブの活動を推進する。	②-1 第1学年を対象とした防災訓練と、地域と連携した防災避難訓練を行ったが、心肺蘇生講習会は職員・保護者のみとなってしまったので、次年度は生徒も対象に実施したい。 ②-2 生徒会と運動部員及びその顧問による、防災クラブ研修会を実施した。	②-1 徳島西消防署員の指導の下、1年生全員が起震車体験と水消火器訓練を行い、防災意識が高められた。地域と連携した防災避難訓練では受付や誘導を行い、地域とのつながりを深める機会が持てた。 ②-2 日本赤十字社徳島支部の方に三角巾を使った応急手当・運搬法・ロープワークを指導して頂、地域や学校の防災力を高める体験をすることができた。	② 防災は意識の向上が大事。その上で行動力、実践力を培わなければならない。この力を身につけることが重要なので、特に地域の人たちとの関わりの中で防災力を高めることが重要。地域の防災を担う人材の育成がより明確に位置づけられていないが、地域の人たちとの訓練で何をするのか、もっと明確な表現、記述がほしい。	②-1 意識を向上させることが知識の向上につながる。「防災」について更なる意識向上に努めたい。また、災害時に自助・共助ができる実践力を高めるため、地域と連携した防災訓練を工夫する。 ②-2 防災クラブの活性化と女子生徒の参加数を増やす。

総 括 評 価 表

重点課題 6
「特色ある学校づくりと情報発信」

重点目標	自己評価		評価		学校関係者評価	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評価	総合評価	総合評価（評定）	
(全体レベル) 教育資源を生かして特色ある教育活動の推進に努める。また、魅力ある学校教育を実践する (下位組織レベル) ①リーダーシップを発揮する農業科の特色ある教育を推進する ②個性を伸ばす総合学科の特色ある教育を推進する ③学校の特色を積極的に広報・情報発信する ④PTA・同窓会と連携し、教育活動に生かす ⑤風通しのよい職場づくりと働き方改革を進める	評価指標 中学生の進学希望数(年3回) 各回：前年度比 110%以上	評価指標による達成度 中学生の進学希望数は各回とも前年度比 110%を超えた。 (1回：123%，2回：132%，3回：112%)	評定	総合評価	総合評価（評定） A 中学校の進学希望者は毎回前年度を上回っており、十分達成できたといえる。	
	①-1 アグリドの実践活動を基盤とした農業生産の活性化 農場生産収入 950万円以上 ①-2 各種検定・競技での実績 四国・全国大会出場 3種目以上 アグリマイスター取得 3人以上	①-1 アグリドでの販売所運営が軌道に乗り、農場生産収入970万円となった。 ①-2 学校農業クラブ四国大会2種目、全国大会1種目出場、アグリマイスター取得7名となった。	A	評定 A ① 農業教育を通じて実践力を身につけさせるとともに、地域の担い手としての役割を果たせる人材育成が推進できた。 ② 総合学科の学びの中で自分探しから進路決定へと結び付ける系統立てた取組を推進することができた。 ③ 学校ホームページを活用することで効果的な広報ができた。 ④ PTAとの連携を積極的に図ることで学校への理解や協力体制が整い、学校運営の大きな要因となることが確認できた。 ⑤教育に対する、生徒に対する熱意の表出の結果であり、学校だけの努力でなく、教育行政の強力な施策が必要であると考えます。		
	② 地域との連携した学習や外部講師による講演会 年5回以上 総合学科における選択科目の充実 生徒満足度 80%以上	② 総合学科の学習や農業教育、主権者教育、防災の部分で連携・活用が積極的に見られた。 地域連携・外部講師活用：17回 (内 アグリスクール：8回) 生徒授業満足度：85.1%	A			
	③ ホームページを適宜更新し、最新の学校情報を発信する。2回/学期(6回/年)以上	③ 学校行事の案内や生徒の活動状況等適宜発信した。 HP更新数：年6回(前年度比 2.0倍)	B			
	④ ホームページで PTA 関係の情報を発信する 年間6回以上	④ 2学期までに9回発信できた。	A			
	⑤ 全教職員の超過勤務時間を国・県の指針内に納める。	⑤ 殆どの教職員が指針内に納まったが、一部教職員が部活動指導のため、全く指針内に納まらなかった。	B			
	活動計画 ①-1 もうける仕組みづくりを推進する。(アグリドを軸とした活性化) ①-2 農工商教育活性化方針に基づく継続的な取組を実践する。(農商工連携6次産業化の取組を含む) ①-3 プロジェクト学習及び学校農業クラブ活動を活発に行い、FFJ検定合格、アグリマイスター認定に結びつける。(専門的指導の充実)	活動計画の実施状況 ①-1 アグリドによる販売所開店日数27日、平均来場者数87名、売り上げ実績2,635,198円 ①-2 農工商教育活性化方針まとめの年度となり、ほとんどの取組内容においてA評価となった。農商工連携6次産業化では「阿波藍」に関する取組を徳島商業高校、徳島科学技術高校と連携し継続して行うことができた。 ①-3 学校農業クラブ活動での成果が反映され、FFJ検定上級7名、アグリマイスターゴールド1名、シルバー6名となった。	成果と課題	①-1 もうける仕組みづくりの基礎となる、経営感覚を生徒に身につけさせる場として効果のある活動となった。 ①-2 今回の活性化方針で農業教育の改善点に取り組むことで、よりレベルの高い教育を展開していくことができた。今後も生徒の実力を高めるための方策を考え実現させたい。農商工連携6次産業化においても「阿波藍」を継続して取り組むことで学習の深化を図ることができた。 ①-3 プロジェクト学習の取組が各専攻において着実に実施され、農業科全体で学校農業クラブ活動が活性化されている。	学校関係者の意見 ①-1 もうける仕組みとして、「そよかぜ」の開店を続けるのはすごいと思っている。大変だが頑張ってもらいたい。 ①-2 「農学」の存在意義が問われています。中心校として、農場収入、研究、進路などに重点を置いた取り組みを続けていてよいと思います。社会の評価は薄まっているように感じます。	収益性を考えていくことも大切だが、良質で安全性の高い農産物の生産や地域の環境保全活動へ積極的に取り組むことで、本校生徒の持つ力を伸ばしている農業教育を実施していく。 県教育委員会によって、次年度より策定される徳島県農工商教育活性化・魅力化方針に沿った取組を行い、充実した農業教育を実施していく。資格取得だけでなく、インターシップや現場実習を教育課程に組み込んだ学習を行い、生徒の農業に関する進路実現につなげていく。
	②-1 自分の個性や適性を発見し、将来の進路や生き方などを学ぶ「産業社会と人間」とそれに続く「エポックⅠ・Ⅱ」の充実を図る。 ②-2 総合学科の特性を活かした授業展開の充実を図る。	②-1 総合学科1,2年次において実施、地元を中心とした進路に関する調査を軸にし自分自身の進路について考えさせた。 ②-2 地元企業や大学など仕事や学びの重要性を理解し、将来の進路に結び付ける。外部講師の講演会の開催：4回		② 自分自身の目標を明確にすることで、学校生活が充実し、学校活性化の大きな要因となることが確認でき、今後の計画的な取組が期待される。	② 総合学科と農業学科の2つの科を持つので、それぞれの学科で行事をやるのもいいが、その両方が協力をした何か行事を考えれば、特色あるものを作ることができるのではないかと。	「普通科」とは異なる「総合学科」としての特徴をより具現化するためには、生徒だけでなく指導者の人材育成にも力を注ぎ、魅力あるプレゼン能力を高

				めていく必要があると思われる。
③-2 学校ホームページを学期ごとに最新情報に更新するなど充実を図る。	③ ホームページ更新に関する職員研修会を実施するなど積極的な活用に努めた。	③ 学校ホームページの充実が多方面に対してその波及効果が大きいことがわかった。今後もホームページ更新のための職員研修会を増やすとともに効果的な情報発信を探究していきたい。	③ もう少し見やすく魅力あるホームページを作ってほしい。	
④ PTA の行事を中心にホームページに情報を掲載し参加を促す。	④ 2学期までに9回発信し参加を促すことができた。	④ 学校ホームページの活用を中心に据えた広報活動を展開するとともに、催し案内や情報伝達の場としての活用を検討する。		
⑤-1 挨拶が励行される職員室づくりと効率を考えた業務遂行段取りの意識付けを推進する。 ⑤-2 会議・研修等の精選、会議等時間の設定並びにゆとりある時間活用の推進を図る。(定期考査中の会議等を削減)	⑤-1 挨拶の励行は優れて良くできたが、業務遂行段取りの意識付けについては個人差が大きく見られた。 ⑤-2 活動計画を概ね達成できたと考え、特に会議時間は大幅に短縮された。	⑤-1 業務遂行段取りを立てるに当たって、学校現場は飛び込みの業務が多すぎるものが障害となっている。 ⑤-2 今後とも一層努力していきたい。更なる工夫・改善が可能と考える。	⑤ 「働き方改革」の一貫として教職員の超勤について配慮をお願いしたい。	